

ミズヒマワリパトロール

9月30日に、芥川大橋から鷺打橋の間をパトロールしました。芥川倶楽部5人と国土交通省3人の計8人が、左右岸に分かれて生息状況を調査します。陸上からと川の中からそれぞれ目視で確認し、位置と群落の大きさを記録します。怪しいところを念入りに見ながら、約2時間で終了。今回は14地点でミズヒマワリの生息を確認しました。中でも芥川大橋下流地点では5m×2mの大きな群落を形成。昨年国交省に駆除してもらったはずですが、少しでも残っているとあっという間に広がります。油断大敵です。

また10月7日に、津之江公園付近を芥川倶楽部2人と高槻市2人の計4人でパトロールしました。

コロニーを見つけたら、まさに“根こそぎ”除去。農業用ネットで作った大ネットに切れ端もこぼさず集めます。この日は約40kgを除去。コロニーが大きくなる前に除去したいものです。

ミズヒマワリの撲滅を目指し、今後も芥川のパトロールを続けます。



特定外来生物ミズヒマワリ



背景地図の出典：国土地理院ウェブサイト

令和3年度定例総会(書面開催)

〈代表あいさつ〉

皆さまこんにちは。お世話になっております。「芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク～愛称：芥川倶楽部～」代表の田口です。今年の総会は、新型コロナウイルス感染予防も考慮して、去る7月3日、書面開催の形式で持ちました。初めての試みで皆さまには、ご心配・ご不便をおかけしましたが、事務局を担っていただきました高槻市下水河川企画課の担当者の方々、総会骨子を検討くださいました企画会議の皆さまのお陰をもちまして、無事各議案が了承されましたこと厚くお礼申し上げます。



芥川倶楽部は、平成17年(2005年)7月7日に発足しましたので、17年目のスタートになりました。この間、活動に参加いただきました皆さま、そしてこれまでご支援・ご協力いただきました関係各位に改めて厚くお礼申し上げます。今年度も新型コロナウイルスの終息がはっきりと見えません。オリンピック開催や海外からも入ってくる可能性のある変異ウイルスで新たなパンデミックも否定できず、明るい展開が見えにくいですが、派手な活動は出来なくとも、地道な芥川倶楽部らしい活動が今年もできたらと願っております。

皆さまにおかれましても、引き続き感染予防などに努めながら今年度もお元気でご活躍頂きますよう祈念して、ご挨拶とさせていただきます。(2021年7月吉日 田口 圭介)

総会の議案は令和2年度の活動報告・決算及び会計報告、令和3年度の活動計画案・予算案が審議され承認、また役員改選も審議され承認されました。

令和3年度の役員体制

- 代表：田口圭介 (NPO芥川倶楽部)
- 副代表：宮下典之 (パナソニック松愛会高槻支部)
- 副代表：山本忠雄 (NPO芥川倶楽部)
- 会計：山崎栄子 (NPO芥川倶楽部)
- 監事：中川修一

芥川倶楽部では、川づくりや各種イベントに参加してくれる方を募集しています。
 ホームページ：http://akutagawaclub.web.fc2.com/ ブログ：http://akutariv.blog85.fc2.com/
 E-mail:akutagawa072@yahoo.co.jp <芥川はみんなの財産です。みんなで守り、育てていきましょう。>

あなたと自然が触れ合える芥川の情報誌

芥川水辺だより



Vol.39
2021年
秋号

夏雲を背に 魚影追う子と芥川



水辺の楽校

事前授業で水生生物の生態や河川の水質、治水の仕組み、気象について学び、川の授業で実践する「水辺の楽校」。学校との打合せや事前授業にWEB会議方式を導入するなど工夫しながら、今年も4校(うち川の授業は1校のみ)で開催できました。成果として子どもたちの作品をたかつきエコ&クリーンフェスタ(9/24-25)やあくあびあ芥川(R4年1月予定)で展示し、多くの人に見ていただきました。

編集 芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク ～愛称：芥川倶楽部～ (事務局：NPO法人芥川倶楽部)
 発行 令和3年(2021年)11月 高槻市都市創造部下水河川企画課 TEL:072(674)7432
 <芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワークは河川協力団体(国(近畿地方整備局)第2号)に指定されています>

おとなのための魚とり講座

名称も新たに4年ぶりの開催です。7月17日、子どもからシニア世代まで総勢41人が、あくあびあ前の芥川に集まりました。専門家直伝の技法をまずおとなが習得し、次にそれをおとなが子どもに教えながら一緒に魚を捕るといこの講座。昔なら普通の風景だった親子での川遊びが、再び日常の姿となるよう願っています。



①子どもチームはまず館内で勉強。 ②おとなチームは魚の捕り方を受講。 ③おとなが教えながら子どもと一緒に魚とり。



足の間をすり抜ける魚の影と、川中の石のヌルヌル。草陰のカサゴソで捕れるエビの透明度。水深30cmの流れの重さに驚き、底が見えない深みの「なんかいてそう感」に心惹かれる。キチキチバッタに振り向けば、石積みの根もとで優雅に舞うハグロトンボ。ネットでは得られないそんな体感、何物にも替え難い経験として子どもたちの胸に刺さったはず。覚えての捕り方を子どもに教えるおとなたちにも、腰の痛みを忘れさせる2時間となったことでしょう。この爽快感は、川を吹き抜ける風のせいではありません。



カワムツ ハグロトンボ♀

魚みちのメンテナンス

梅雨が明けて本格的な暑さが近づくと、魚たちも元気になって川を遡ります。いくつかの魚みちでは流路などに土砂が堆積して通りづらくなっていましたので、魚がのぼりやすいよう、みんなで土砂を撤去しました。暑い中での作業は大変でしたが、これで安心です。



アイスハーバー型魚道



芥川倶楽部とレンジャーズプロジェクトの皆さん(6/26)



正恩寺橋下流落差工の魚みち
あくあびあ芥川の前にある、段差1.5mの落差工に設けられた魚みちです。「アイスハーバー型」と呼ばれる、コの字型の仕切り(隔壁)を階段状に配置したプールがあって、魚が休憩しながらのぼることができるのが特徴です。この魚みちは、多くの魚が遡上することが確認されていますが、増水のたびに土砂で埋まる欠点があり、実に世話の焼ける魚みちです。



下井手堰の魚みち
堰の中央部に陣取るハーフコーン型魚道が特徴です。このタイプは土砂が堆積しにくいと言われており、確かに魚道内には堆積しませんが、魚道の下流側にはどうしても溜まりやすく、メンテナンスが欠かせません。

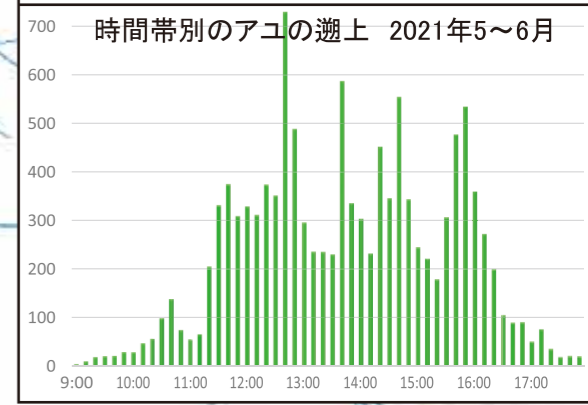
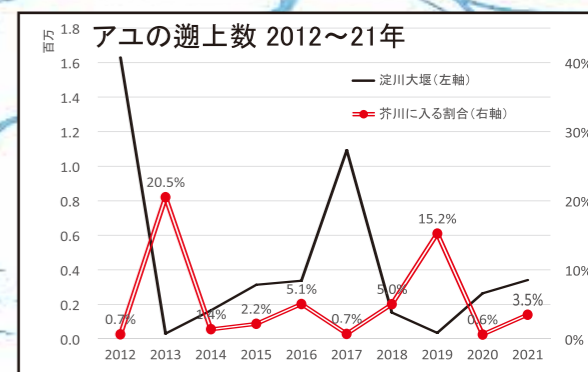
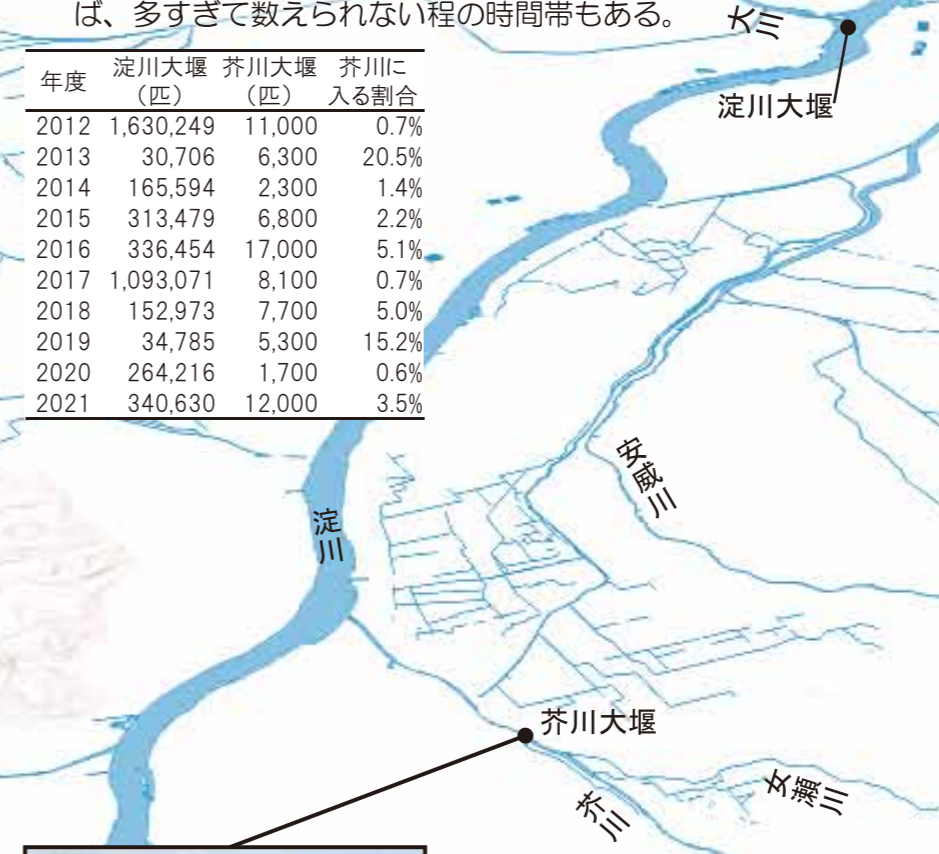
桜堤公園
背景地図の出典: 国土地理院ウェブサイト

アユ遡上調査10年の記録

芥川大堰の魚道でアユの遡上調査を始めて10年が経ちました。海から淀川大堰を遡上したアユが右岸側で最初に出会う支流が芥川。通り過ぎず芥川に入ってきてほしいが、どんな時にこちらに来てくれるのか。これまでの調査で、次のようなことが分かっています。

- ① 雨が降って流量が増えたとき、特に2日くらい後で水が少し濁っている時にたくさん遡上する。
- ② お天気が続くと魚道の下の方の深みにいて遡上しないが、何かのきっかけでどんだんのぼりだす。
- ③ 1匹ずつバラバラではなく群れでのぼる傾向が強い。
- ④ 遡上数は年によって大きく変動する。日によっても変動し、また1日のうちでも全然のぼらない時間帯もあれば、多すぎて数えられない程の時間帯もある。

年度	淀川大堰 (匹)	芥川大堰 (匹)	芥川に入る割合
2012	1,630,249	11,000	0.7%
2013	30,706	6,300	20.5%
2014	165,594	2,300	1.4%
2015	313,479	6,800	2.2%
2016	336,454	17,000	5.1%
2017	1,093,071	8,100	0.7%
2018	152,973	7,700	5.0%
2019	34,785	5,300	15.2%
2020	264,216	1,700	0.6%
2021	340,630	12,000	3.5%



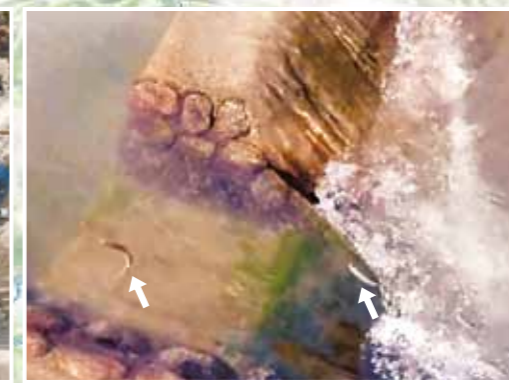
芥川大堰の魚道

上の図表のように、淀川大堰を遡上するアユの数も芥川にやって来るアユの数も年ごとの変動が大きいですが、淀川での遡上数が少ない年に芥川に来る割合が高い傾向がみられます。秋に川で生まれたアユはすぐ海に下り、幼少期を海で過ごして春にまた川を遡ります。川で成長して秋に産卵。前年の産卵数が少なかったり生まれた稚魚の生存率が低いと翌年の遡上数が少なくなります。厳しい生存競争で生き残ったアユたちが芥川に来てくれたと思うと応援したくなりますね。

アユは半年くらいで大きく成長し、環境指標として分かりやすいことから調査していますが、川の生態系としては、アユだけでなく多くの種類の生き物が棲んでいることが大切です。そんな芥川を目指して今後も活動を続けたいと思いますので、ご協力をよろしくお願いいたします。



摂南大学の皆さん
調査は暑さや眠気との戦い。1日調査して1匹も見ないこともある。



切り欠き部分を跳ねながら越えるアユ。



背景地図の出典: 国土地理院ウェブサイト